

# EHIME ROUSAI HOSPITAL KANGOBU NEWS NURSE LETTER Mont 4



## 看護部の理念

**目標**を人として尊重し、信頼される看護を行います。

- ・ 個々のニーズに応え、安全で心のこもった看護を実践します。
- ・ 医療チームの一員としての役割を果たします。
- ・ 専門職業人として自己研鑽につとめます。

## 平成 19 年度看護部

1. 安全・安心・安楽な質の高い看護を提供する
2. よい接遇と心温かい看護を提供する
3. 専門職として品格をもち、組織の一員として責任を果たす
4. 主体的・効果的に学習の機会を活用し自己成長を図る

## 変わる看護部

看護部長 岡本 民子

H.19年度、看護部に新たな“風”が吹きはじめました。H.15年「病院機能評価」受審、H.16年独立行政法人に伴う「BSC」への取り組みと新しいことにチャレンジ、一生懸命誇り成果を上げてきました。その間、医療行政は目まぐるしく変化し、厳しい状況は当院にとっても大きな影響を受けることになりました。しかし、私達は常に前を向き、元気に対応してきました。そして、H.18年度にオーダーリングシステムの導入および看護支援システムの更新が決定、検討がはじまりまさに大詰め段階を迎え、5月に研修、7月には実稼働となります。また、病棟では5月から看護助手業務の一部を委託し、看護師として専門性がより発揮できる体制にします。さらに、ナースコールの更新が決まり最新のシステムが導入される予定になっています。一方、現行教育システムではクリニカルラダーによるキャリア開発をはかり、臨床実践能力の向上を目指していきたいと考えています。これら業務・教育の取り組みにより、看護を取り巻く環境が大きく改善されます。私達は貴重な恵まれたチャンスを活かし、患者さまの信頼に応えられるよう努力が必要です。この変化の“風”をしっかり捉え、みんなで支え合い課題をクリアしていきましょう。

## H.18年度 活動報告



## H.19年度 方針☆目標

教育委員長 西村 百合枝

平成18年度は継続的・段階的な教育を行ない知識・技術の習得をし、指導的役割が果たせる看護師を育成することを方針に現行教育を実践しました。特に、教育行動の一つで「静脈注射の実施に関する指針」をもとに教育システムを整え、新人看護師及び看護師全員が静脈注射実施範囲レベルの知識・技術を習得することができました。各コースとも看護の変化に合わせて取り組み、研修目標は大部分達成しました。しかし、今日では新人の個性化や、さまざまな教育背景があり、コース毎の現行教育では、十分な対応ができないと考え教育システムの再構築の必要性を感じました。そこで、平成19年度は看護師一人ひとりの看護実践能力を強化して、自己のキャリアを自分で設計して力を習得できるクリニカルラダーシステムを導入することとしました。看護師個々の臨床実践能力や意欲に焦点をあて、正当に評価できるシステムであり、質の高い看護ケアを提供するためのキャリア開発を確立していきたいと思ひます。

## 火災訓練 ～災害に備えて万全の体制～

手術室 柏木 佐智

手術室では、2003年度より積極的に災害訓練に取り組み学会でも発表しています。今回、院内火災避難訓練時に、模擬患者を設定し、全身麻酔下中の火災時避難訓練を医師と消防士も交えて実施しました。手術室での目的を 1. 配管の安全管理の確認、2. 全身麻酔下での医師と火災避難訓練の実施、避難経路・方法の確認、3. 手術室災害マニュアルの見直しと設定し、机上シミュレーション・行動シミュレーションと段階を踏み、今回の訓練に至りました。予定していなかったTV撮影の打ち合わせをすること数回、そしてリハーサルを行い、抜群のチームワークで主演男優賞・主演女優賞も狙えそうな迫真の演技で取り組みました。次年度も今回の反省と課題を踏まえ、災害に強い病院を目指し取り組んでいきたいと考えています。



業務委員長 河村 寿子

記録委員会では種指計画以外に現場からの要請等に迅速に対応し、業務改善委員会は他部門と協力した業務改善に取り組み成果をあげた。また業務量調査のデータは助手業務の委託導入に活用されている。事故防止委員会では本部研修者とのKYTの普及活動やセンサーマットの追加購入に一役を担った。感染防止対策委員会は環境整備の見直しやPPEの定着という難しいテーマに取り組み、得られた情報は現在の助手業務委託に活用されている。19年度は助手業務の委託やオーダーリングの導入等、変化の年になる。業務委員の方のみならず、皆様の協力を心からお願ひ致します。

つばやき・・・ APR.2007

何か始まる予感 何か変わる予感  
どこか不安で どこかわくわくする。